

ICT 支援機器導入ガイドライン ー必要性の確認ー

以下の困難の状況についてチェックを行い、当てはまる場合には検討対象とする

1. 書字に関する困難の状況

- ・ 全く書けない／代筆してもらっている
時間があれば大きい紙に特定の何文字かを書ける
時間とスペースがあれば何とか書ける
- ・ 時間はかかるが書ける（実用性の有無 無 ・ 中 ・ 有 ）
- ・ 書字はできるが疲労が大きい（二次障害を引き起こす心配がある）
- ・ 書字をすると書くのに精一杯で他がおろそかになる（話が聞けない等）
- ・ 欄に合わせて小さく書けない（記入欄が大きければ書きやすくなる）
- ・ 大きな用紙だと書きにくい・折ってもらわないと書けない

2. 資料や教科書の管理に関する困難の状況

- ・ 教科書や資料を自分でめくれない
- ・ 資料の取り出しや入れ替えができない
- ・ 鞆が重くて自分で運べない

3. 認知面等に起因する困難の状況

- ・ 漢字の間違いや読み飛ばしが多い（拡大すれば減る）
- ・ 文章の読み取りが苦手（読んでもらえれば理解しやすい）
- ・ 小さな図だとよく見えない・わからない（拡大すればわかることが多い）
- ・ 目盛りや表の読み取りで、小さいと読み取れない（拡大すればできる）

4. コミュニケーション面に関する困難の状況

- ・ 発声や構音の困難があり、音声言語でのやり取りが苦手
- ・ 姿勢や上肢の可動域、移動等に困難があり、他者に自分の書いたものや資料を見せながら説明することができない
- ・ 姿勢や上肢の可動域等の困難があり、話し合い活動でメモを取れない（メモができれば理解しやすい）

5. 生活全般に関する困難の状況

- ・ 地図の読み取りができないことで外出が苦手
- ・ 照明の ON/OFF などを自分で行えない
- ・ テレビやエアコンを自分で操作できない